

## 情報通信工学科(JO)学生の就活サポート

情報通信工学科学科長

杉山 隆利

情報通信工学科では、今後の高度情報社会を支える ICT（Information and Communication Technologies）いわゆる情報通信技術を 3 つの領域（①通信・ネットワーク、②情報メディア、③スマートデバイス）の統合と考え、これらの領域ごとの知識を幅広く修得することを目指しています。

①はスマホやパソコンを使うのが当たり前の現代では、大量の情報が発生し、その大量の情報をどうしたら早く正確に伝えられるかを考える領域です。

次に②の情報メディアは①の通信・ネットワークで運ばれた大量の情報の中から、どうやったら必要な情報だけを検索したり抽出したりして、情報をわかりやすくするために変換したり加工したりするものです。

最後の③スマートデバイスは、②で変換や加工された情報を、実際に目にするためにどういやって情報を表示するか、という技術領域です。

情報学部では、1 年生と 2 年生前期までの入学後の最初の 1 年半は、情報学部全学科共通の科目を学び、情報学の基礎をしっかりと固めます。次に情報学実験やプログラム演習など、講義だけではなく、実験や演習を重視し、体験を通して身につくカリキュラムを構成しています。さらに 2 年生後期からは、より専門的な内容を学修し、情報通信工学科では、上記の 3 つの分野についての知識を深めていきます。

これらの 3 つの領域を学修すると、自然とハードウェアからソフトウェアの幅広い知識が修得できます。これはスマホやパソコンのハード設計・製作からアプリケーション等のソフト開発まで、幅広い職種につける可能をもつことを意味しています。

情報通信工学科の就活のサポートは『電気系』というくくりで行っていますが、情報学部指定で募集する企業へ情報通信工学科からも応募することが可能です。従って、電気系だけでなく情報系企業への幅広い就職先が情報通信工学科の大きな特長となっています。また就職先の紹介・状況調査、相談などは研究室単位で行われることが多く、これまでの就職傾向は情報通信工学科と情報学部の他学科と少し異なり、通信系インフラ、メーカー等への就職比率が高くなっています。